

第3回 甲府市社会福祉審議会 健康・保健専門分科会 議事録

開催日時：令和5年10月18日（水） 19時00分～20時20分

場 所：甲府市役所本庁舎6階 大会議室

出席委員：8人

欠席委員：2人

事務局：健康支援室長、地域保健課長、母子保健課長、健康保険課長、精神保健課長、医務感染症課長、生活衛生薬務課長、健康政策課長、外一般職員6人

担当課：福祉保健部 健康政策課

傍 聴：なし

次 第：

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

(1) 次期保健計画の数値目標について

(2) 次期保健計画の素案について

(3) その他

4 閉会

会議内容：

1 開会

事務局より開会の挨拶を行った。

2 会長挨拶

会長より挨拶を行った。

3 議事

(1) 次期保健計画の数値目標について

事務局より、「新旧指標比較表」、「数値目標設定指標一覧表」について説明を行った。

【委員】

指標 16 の「喫煙率の減少（喫煙をやめたい者がやめる）」について、国の方針に倣い設定したものと認識している。国としては、喫煙をやめたくない者に対してはアプローチしない、という方針であるのか。

【事務局】

喫煙率の減少に向け、引き続き、喫煙者全体に対してアプローチする想定である。その中で、まずは「喫煙をやめたい者が禁煙に成功する」という点を支援していくために、指標として本内容を掲げることとした。

【委員】

「COPD の認知度」について、指標から削除する方針とのことであるが、認知度は重要であると感じる。認知度が低いと、COPD と関連した病気（高血圧や糖尿病など）を発症するリスクが上がるのではないかと。

【事務局】

健康日本 21（第二次）では「COPD の認知度」が指標とされていたが、第三次では「死亡率の減少」に見直された。市として死亡率へアプローチすることは難しいので、指標から外す方針である。なお、COPD の普及啓発に係る事業は、引き続き推進する。

【委員】

がん検診について、要精密検査の人の再検査率が低いことが課題であると感じる。本件に関する指標は設定しなくて良いのか。

【事務局】

要精密検査の人の再検査率について、指標化できないか検討を行ったが、直近で得られるデータが 3 年前のデータであること等を踏まえ、難しいと判断した。なお、要精密検査の人に対する取り組みについては継続して実施する。

【委員】

指標化は難しい旨、了解した。一方で、計画本文のどこかに、要精密検査の人の再検査率に関する内容を記載し、対応漏れがないようにしてもらいたい。

【委員】

健康は、幸福に生きるための手段に過ぎないとする。ウェルネス（＝幸せに生きる、豊かに生きる等）のために必要な要素として、健康やお金、時間などがある認識である。自助努力を基本として、「自分がどう生きるのか」「生きているうちに何をしたいか」ということを最初に考えるべきである。

行政が、指標を設定しないといけないという背景は理解できるが、例えば「歯・口腔の健康を保つことへの関心を持っている人の割合」が 88.7%から 90%に上昇したとして、どういった意味があるのか分からない。定量的な目標、定性的な目標を使い分けてもらいたい。

【事務局】

行政は、計画を策定し、計画に基づき事業を展開させる必要がある。計画と事業内容をリンクさせるためにも、指標（数値目標）を立て、達成状況を確認するべきと考える。また、計画は、国が掲げる「健康寿命の延伸（＝健康であれば幸せであることが増える）」という前提のもと、策定している。

【委員】

指標 7「子どもの体力の向上（全国体力・運動能力調査結果の実技 8 種目の合計値の全国平均との差）」について、「全国平均より 0.1 増加」が目標となっているが、詳細を確認したい。

【事務局】

国の平均を毎年上回る、という意味である。国の平均が毎年変動するため、このような設定とした。

【委員】

指標 7 は、「屋内運動遊び場（おしろらんど）」の事業評価としての指標とのことであるが、「屋内運動遊び場（おしろらんど）」以外の場所においても取組は行われているため、「屋内運動遊び場（おしろらんど）」の評価のみにしないでほしい。屋内・屋外問わず、運動遊び場の活動に熱心に取り組んでいる先生がいることを知ってほしい。

【事務局】

「屋内運動遊び場（おしろらんど）」に限らず、各地域で取り組んでいる遊び場等の活動の成果も、本指標の結果として反映されると理解している。引き続き情報を収集し、伝えられるものがあれば伝えたい。

【委員】

指標 7 について、小学校 5 年生を選んだ理由は何か。

【事務局】

スポーツ庁が実施している「全国体力・運動能力調査」の対象が小学校5年生と中学校2年生であるためである。

(2) 次期保健計画の素案について

事務局より、「保健計画体系新旧対照表」「保健計画概略」について説明を行った。

【委員】

本計画においては、子どもから高齢者まで、一つの計画に盛り込んでいるため、メリハリがないと感じる。単年度ごとに、重点的に取り組む世代を選定してはどうか。全体を推進するのは難しいと想定する。

【事務局】

いずれかの世代を取りこぼすことは考えにくい。また、重点施策は、市長の政策提言や方針を踏まえて選定するものと認識している。本計画は、各関係部局の担当者も交えて策定しているため、全体的な推進を図っていきたい。なお、ライフステージ単位で重点的な取組はあると想定しているため、追って機会があれば共有したい。

今回の主な見直しのポイントである、歯・口腔における健康づくりや、がん患者への支援は、今後強化していく分野と認識している。

【委員】

全国平均と比較して、甲府市が劣っている点などを、重点的に強化できると良いのではないかと。

【委員】

高齢者いきいき甲府プランの分科会にて、定量的・定性的に評価するという話があった。結論として、高齢者いきいき甲府プランでは、定性的な目標も掲げることになったのか。また、幸福感はどのように測ることになったのか。

【事務局】

検討段階であるため、高齢者いきいき甲府プランの分科会にて報告する。

【委員】

PGC モラルスケールについても、検討しても良いかもしれない。

【委員】

「健康で長生きできる」ということを目的に、計画が策定されている認識である。山梨県は、男女ともに健康寿命が全国トップクラスである。自治会連合会においても、「健康で長生きできる」を合言葉に活動していきたい。

【委員】

健康は、区切って考えることはできないと考える。例えば、欠食と肥満も、「保護者が朝食を作らない」→「保護者も子どもも朝食を食べない」→「子どもがうまく運動できない」→「子どもがお昼に給食をたくさん食べてしまう」というふうに関連している。学校現場でも、そのようなメッセージを保護者へ伝えていきたい。

【委員】

子育てサークルについて、このままの状況であると衰退していくと想定されるが、どういった支援をする想定か。愛育会にて、子育てサークルの支援等を行っているが、サークルがない、母親が集まらない、という困った状況がある。女性の社会進出やコロナの影響があり、5年前と比較すると、子育てサークルの在り方が大きく変わったと思う。

【事務局】

状況については認識している。愛育会の方とも協働しながら、計画における記載内容は検討したい。子ども未来部にて、子育て支援センターを市内16箇所に、幼児教育センターを市内2箇所に設置している。市としては、切れ目のない支援を行い、子育て世代にとって必要な仲間・施設等をつなげていきたい。

(3) その他

今回の分科会は11月29日(水)19時からを予定しており、次期計画の原案について審議予定である。

資 料:

1. 新旧指標比較表
2. 数値目標設定指標一覧表
3. 保健計画体系新旧対照表
4. 甲府市保健計画(素案)
5. 甲府市保健計画概略